

写真でつづる

高橋たか子物語



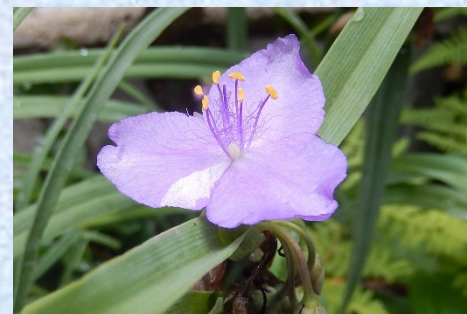
衣笠山



月見草



紫蘭



紫梅雨草

小田垣 孝

2025©高橋たか子旧宅

1932年3月2日 誕生



父：岡本正次郎 母：岡本達子
(1級建築士)

たか子は、昭和7年に京都市
で生まれました。祖父は宮大
工で、父は一級建築士でした。
母（みちこ）は亀岡の郷士の
娘でした。



高橋たか子生家



生家は、蛤御門の変で一帯が焼けて野原になっていたところに明治10年に建てられた職住一体型の京町家です。令和6年に京都市から京町屋として個別指定されました。たか子は、小学校1年までこの家で育ちました。



1932年3月

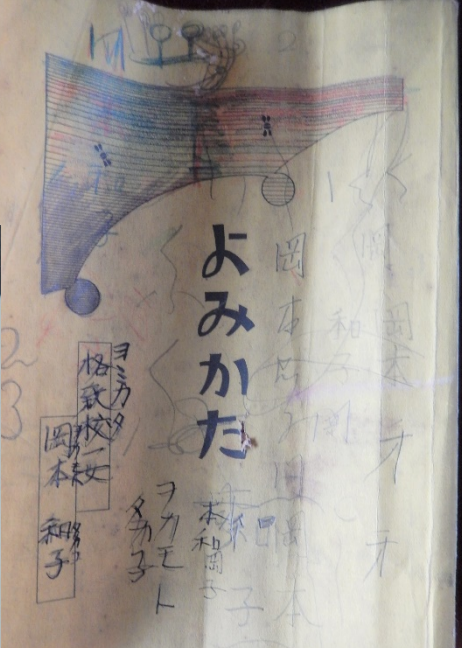
～

1938年12月

等持院北町へ転居

京都市下京区醒ヶ井通仏光寺下ル荒神町

1938年
格致尋常小学校入学



1939年
第2衣笠尋常小学校転校(現大將軍小学校)



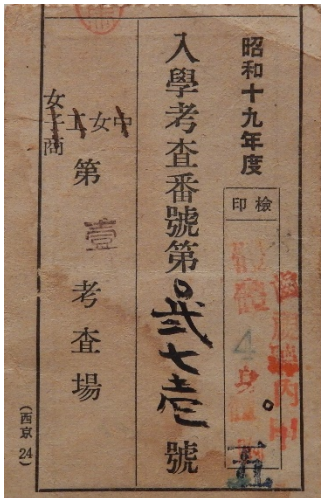
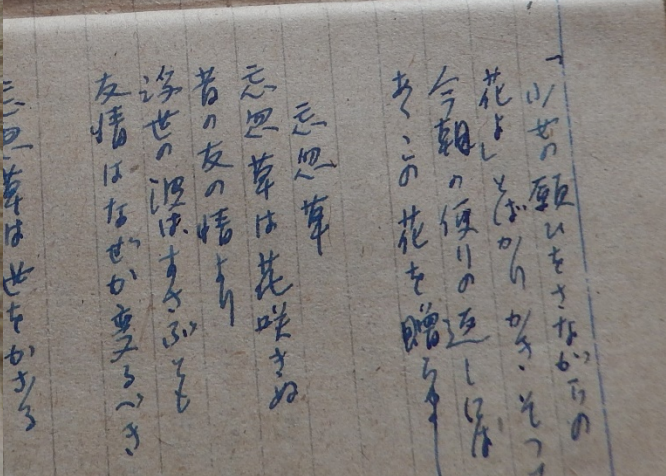
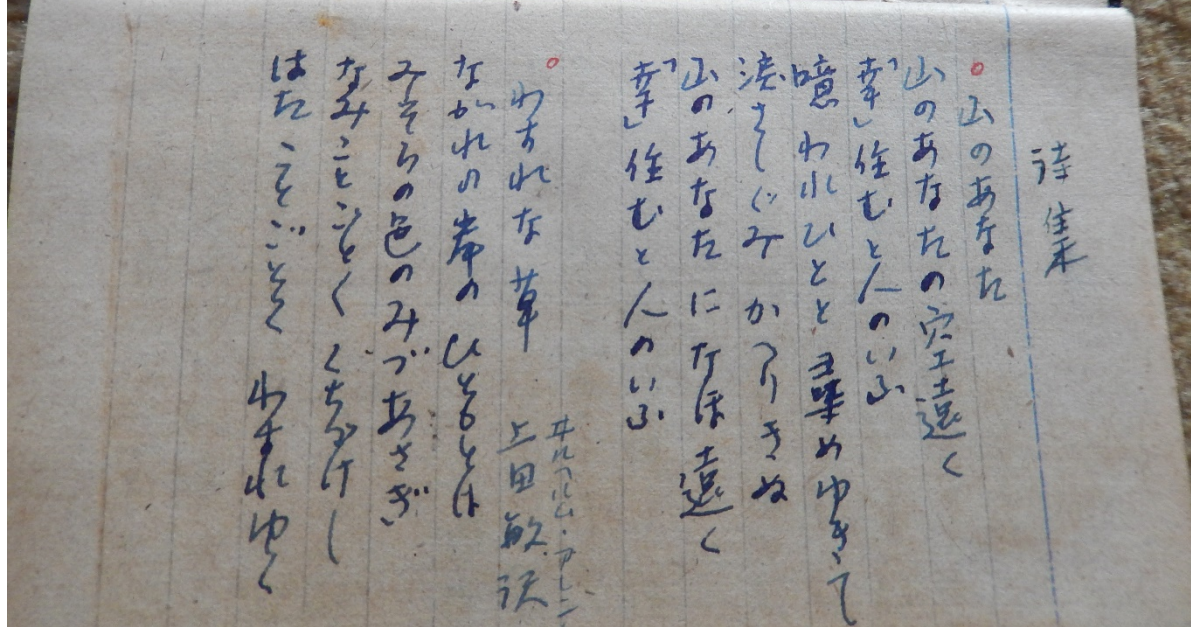
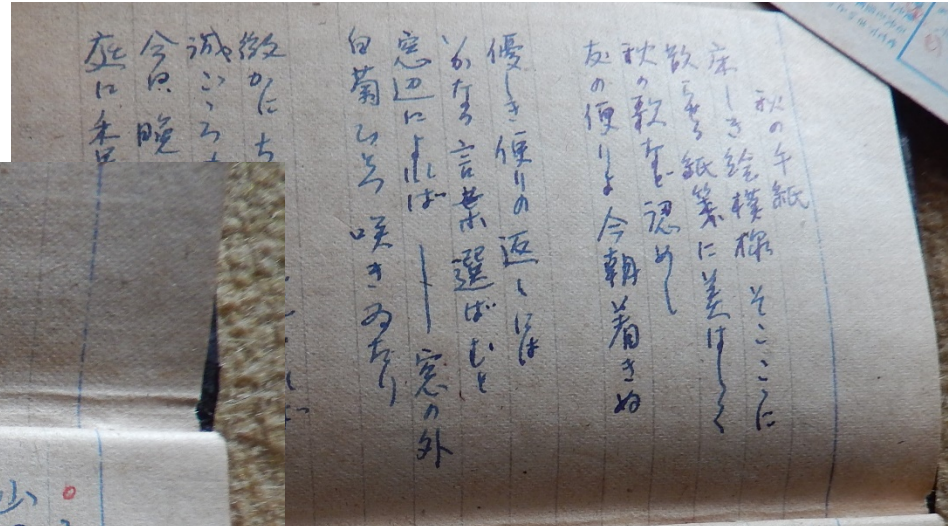
小学校の頃の作品。
絵はかなり上手で
した。

1944年 京都府立嵯峨野高等 女学校入学

早くからフランス語を習うなど、何事にも積極的な女学生でした。小さなノートに詩を書き写していました。



1946年9月



女学校受験票

女学生の頃の自分の部屋のスケッチ



現在のたか子の部屋

本立てや姫鏡台は今も部屋に
あります。
左の図は。写真の右上の角か
ら左下方向を見たものです。

1948年京都府立 山城高等学校編入



たか子は、戦後の学
制変更により鴨沂高
校を経て、山城高等
学校に編入学しまし
た。ここでも、フラ
ンス語同好会。英語
同好会、思想研究会
に属するなど活発な
女学生でした。
運動会でも1等賞で
した。



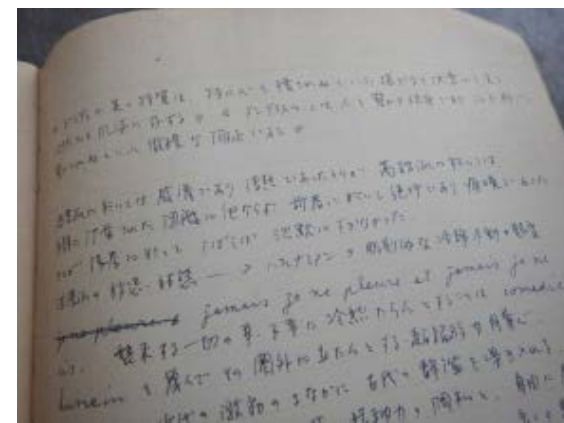
1950年山城高校卒：最前列右から3人目

1950年 京都大学 文学部入学



現役で京都大学文学部合格、宇治にあつた教養部に通つていた頃、宇治川に遊びに行きました。（左がたか子）この頃すでに、小説家と結婚すると決めていたようです。

1952年 仏文学科分属



1954年 仏文学科卒業 卒論「ボードレー」

高橋和巳

1930年生

京都大学文学部

中国文学科卒



和巳との出会いは、
人の記憶が正しいと思
いますが、別のことを
言う方々がおられます。

1953年 高橋和巳との出会い

1. 9月頃、大阪のNHKに就職試験の応募願書を出しに行ったとき

NHKの建物から出た先の石段下で共通の友人が紹介互いに輝いていたと一目惚れ（たか子の回想）

2. 5月頃、河原町の「六曜社」友達の紹介

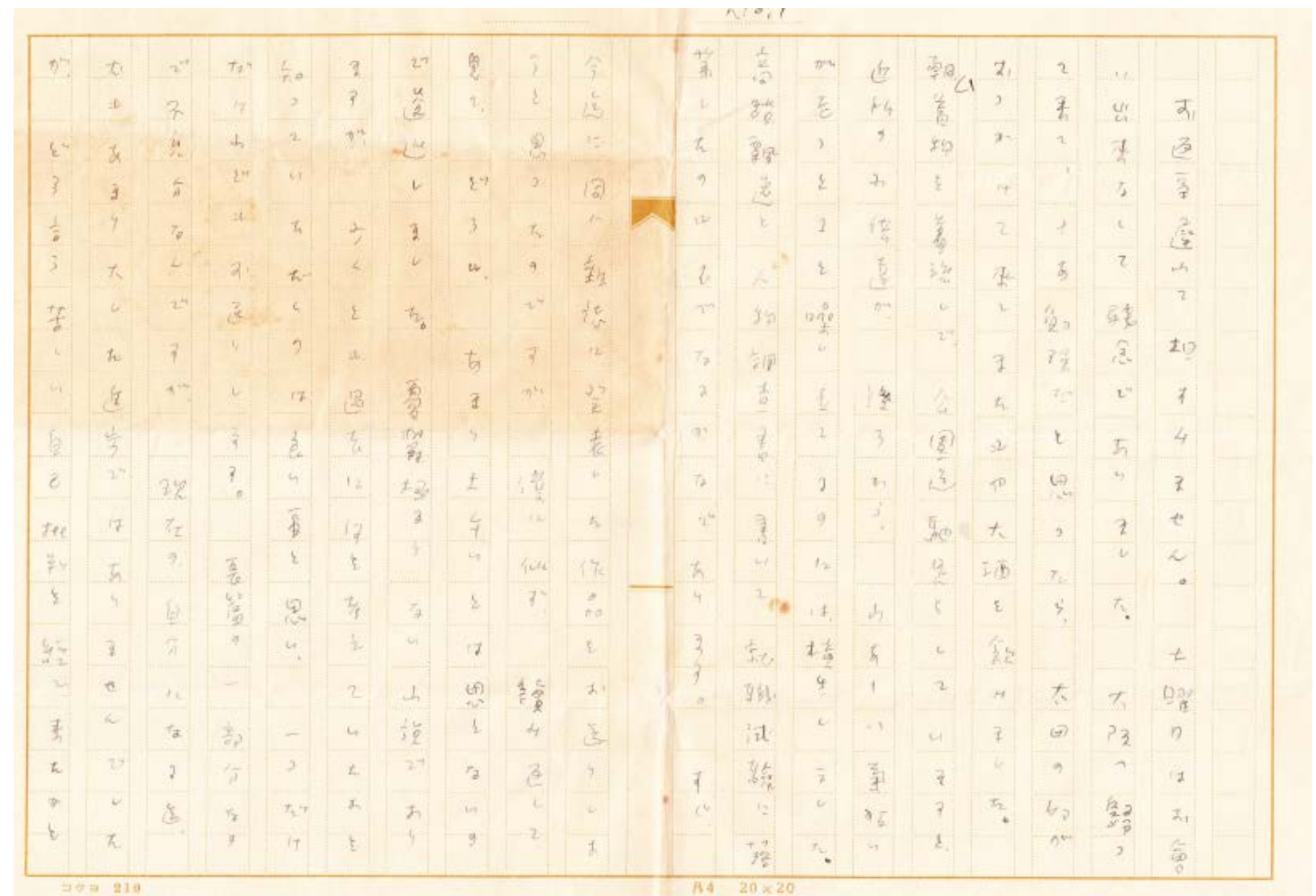
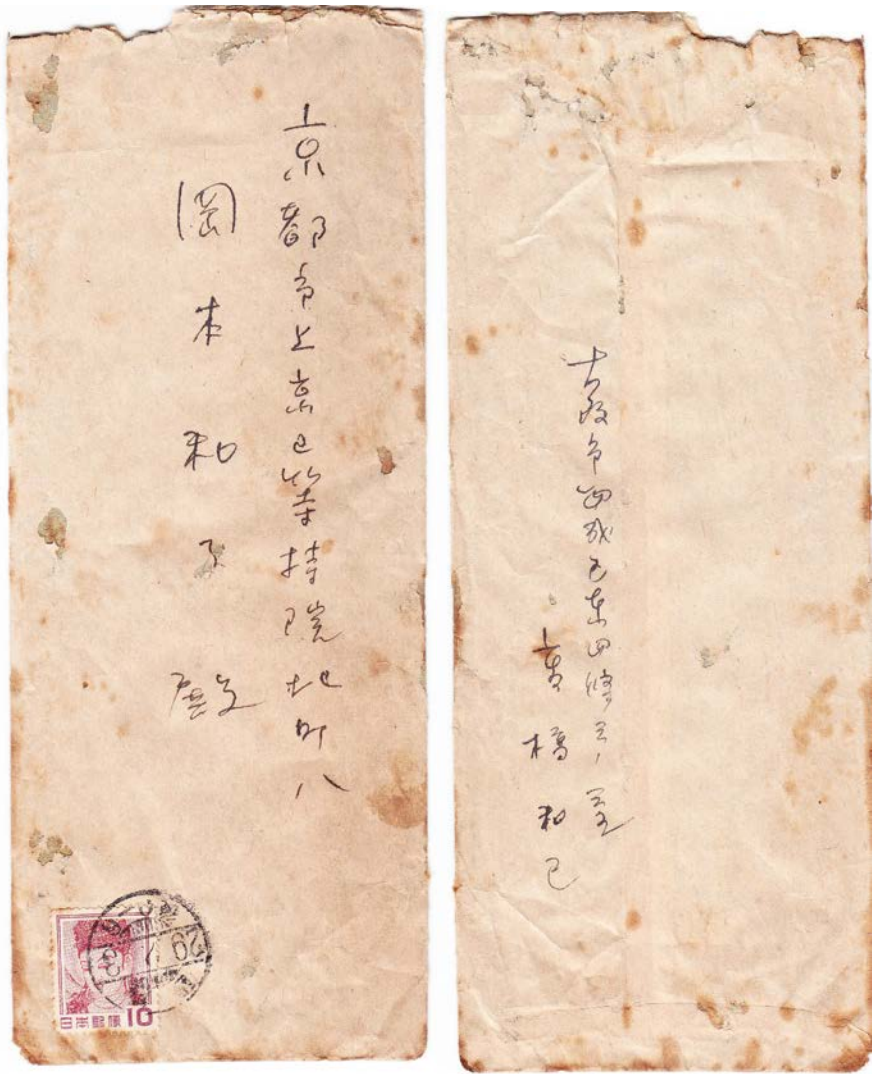
（川西政明『評伝高橋和巳』によれば）



1954年春 和巳の手紙

1954年2月3日付

出会って数ヶ月、2月から4月にかけて少なくとも4通の手紙・葉書が和巳からたか子に送られていきます。たか子からも同様に手紙を書いていたことが文面から分かります。和巳からは、告白がにじみでる手紙が送られています。



て来て、さあ勉強だと思ったら、太田の奴がおっかけて来てまたもや大酒を飲みました。朝、着物を着流しで公園まで馳足をしていますと、近所の小供達が、後ろから、わあーい氣狂いが走つとると噪し立てるのには横生しました。高踏飄逸と人物調査書に書いて就職試験に落第したのはむべなるかなであります。すぐ、

精神は常に容体化する事によって検査しなければならず、又ある程度の堆積の後では、魂は輸入よりも輸出によって より豊富になるものと感じられます。今度大阪で、四月を目標にして雑誌発刊の計画を立てていますが、出来れば同人に加わって下さい。これは想像ですが、貴女も考えておられる事を、技術を気にせず、一旦表出されればよいのではないでしようか。

よかったら今後お互いに少しずつでも人間的に進歩しよりよく完成する努力を、自分一人の為ではなく、競争しませんか。但し、お酒はちよつとやまりませんけれども。それは例外であります。現在のところ、試験やその他の瑣事

二人で成長しましょうという愛の告白と思われま

1954年11月3日
高橋和巳と結婚



文金高島田、角隠しの花嫁衣装で、家を出ました。
後ろの二人が両親です。父親は、岡本家がなくなると大変悲しんだそうです。





たか子の言葉を借りると二人の結婚は

「夢と夢の結婚」

あるいは

「誇大妄想病の男
とその男の才能
を狂信する女の
二人三脚」



平安会館（御所西）

別府、阿蘇、雲仙へ5泊の新婚旅行



夢に満ちた幸
せそうな写真
です。

1954年11月～55年3月

和巳の職場近くの布施市に住む

1955年4月～58年

和巳が退職し、たか子の実家に居候する



実家の茶の間で、友人の黒川紀章撮影

1956年～58年

たか子 京都大学大学院修士課程

和巳の友人が大勢集まり、二階の座敷で文学論を交わしつづつ騒いでいました。その輪に入られてもらえず、たか子の「男尊女卑の京都」という観念が生まれました。56年頃から数年間、和巳の処女作の清書や自費出版の雑務をしました。たか子の父と黒川紀章の父が大学の同窓生で、紀章が京大受験の時はこの家に泊まりました。

1958年3月たか子
修士課程修了
修論「モーリアック論」
4月から会社勤務、吹田市に引っ越す

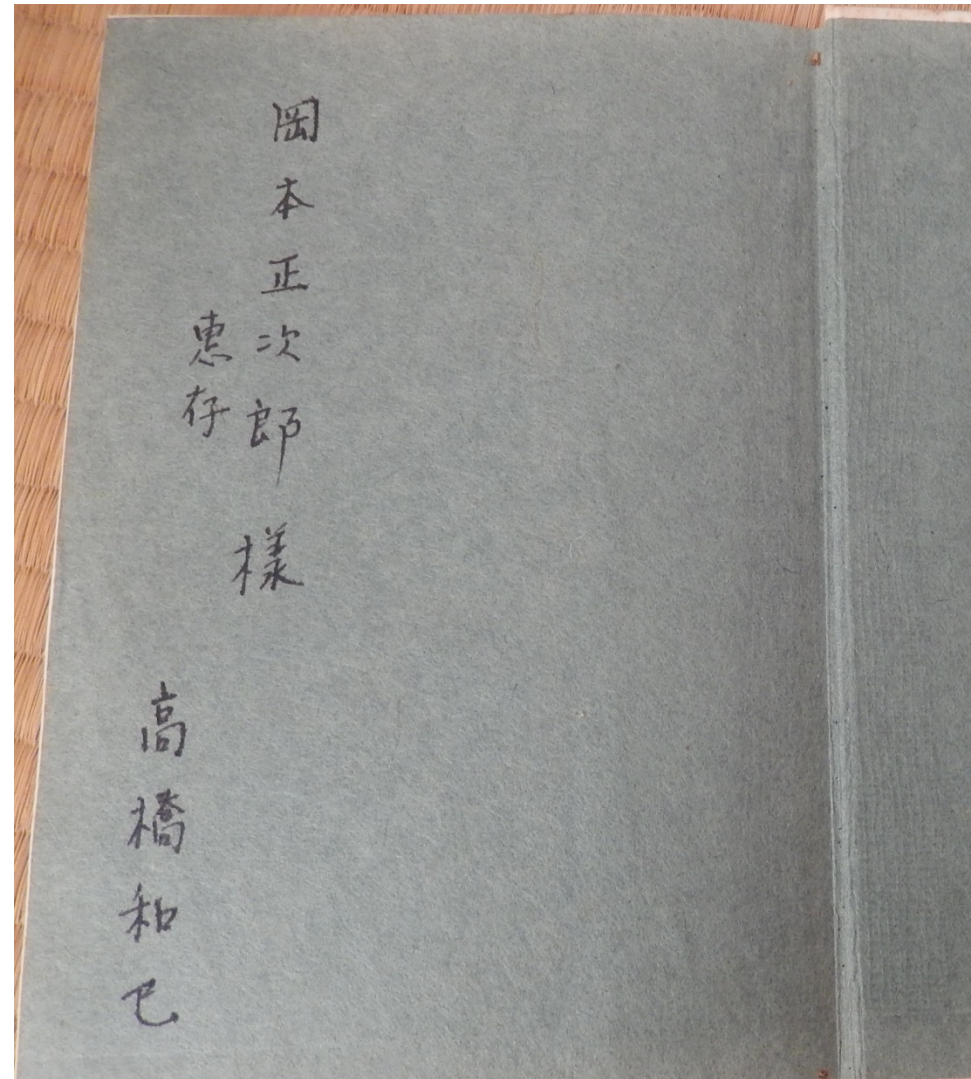


生活費を得るため、会社勤務、59年には会社を辞め、翻訳、仏語ガイドをして生活費を稼いでいました。



奈良でツアーガイド

和巳の処女作「捨子物語」は、たか子の実家で書き上げられ、1958年6月出版された。



和巳が義父に恵送した「捨子物語」です。

高橋和巳著

捨子物語

生れて三月 貧民街の路地に捨てられ 見知らぬ人の慈悲と偽善に育てられた少年の救いなき孤独と幻影の物語

たえざる不安と理由なき迫害に怯え、与えられた不運な性格に躓きながら、なお全き人間関係の回復を祈願するこの少年の物語は、また現代に生きる多くの人々の心の悲しみを象徴する。

新人の書下し長編小説

対話叢書第一冊

1958年～65年9月吹田市居住

和巳：立命館大学講師
(59.4～63.7)

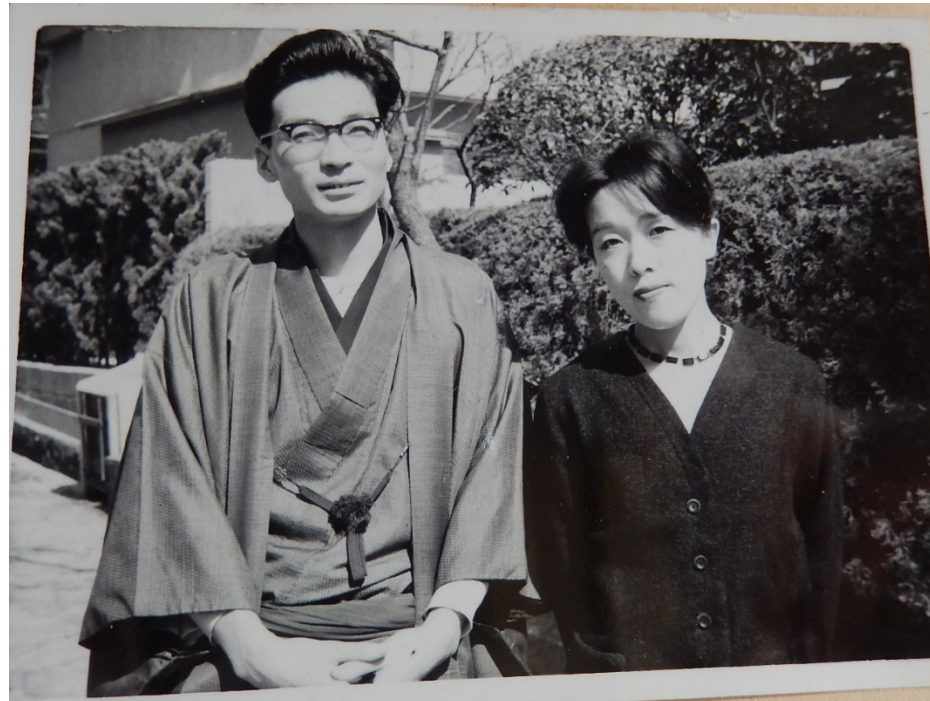
たか子：いろいろ小説を書く

1962年

和巳「悲の器」で第1回文芸賞



活動が軌道に乗りましたが、和巳の受賞祝賀会に、執筆を支えた妻が招待されず、参加費を払って出席するとういうことがあり、世間の「男尊女卑」に、決定的な不満を抱きました。



1961年10月～66年

たか子「ヌーボーの会」参加
生島、山田、多田、生田ら

1964年

和巳「邪宗門」



1965年9月

鎌倉市転居

和巳：明治大学講師(66.4～67.3)



この新居には、多くの人が集まりました。また、近くをよく散歩し、海岸にもよく行きました。犬も飼いはじめました。



1967年6月
和巳京大助教授
(~70年3月)

旅券番号 NO. OF PASSPORT C388796		←	
氏名 MRS. TAKAKO TAKAHASHI (GIVEN NAME) (SURNAME)	高橋 和子	国籍 JAPAN	身長 158 cm
本籍 REGISTERED DOMICILE KYOTO. (PREF.)		特徴 PHYSICAL PECULIARITIES NONE	
生年月日 DATE OF BIRTH 02 MARCH 1932	発行年月日 ISSUED ON 12 APR 1967	発行地 ISSUED AT TOKYO	発行官庁 ISSUED BY 外務省 MINISTRY OF FOREIGN AFFAIRS
職業 AUTHOR			

追記
AMENDMENTS

"Visa d'Etudiant"

CONSULAT DE FRANCE
A TOKYO-YOKOHAMA.

Nom: TAKAHASHI

Prénoms: Takako

1. Numéro du visa: 183

2. Genre de visa: long séjour

3. Date de délivrance: 12 avril 1967

4. Date d'expiration: 18 avril 1968

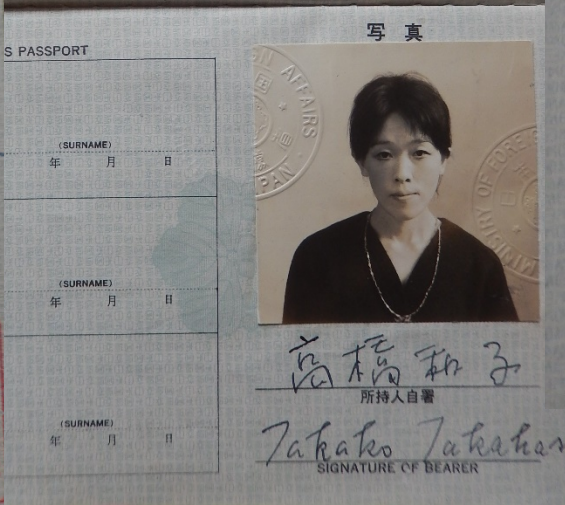
5. Nombre d'entrées autorisées: Une

6. Durée autorisée de chaque séjour: Un an en France

Le Consul de France

Réginald AUSTIN

10,00

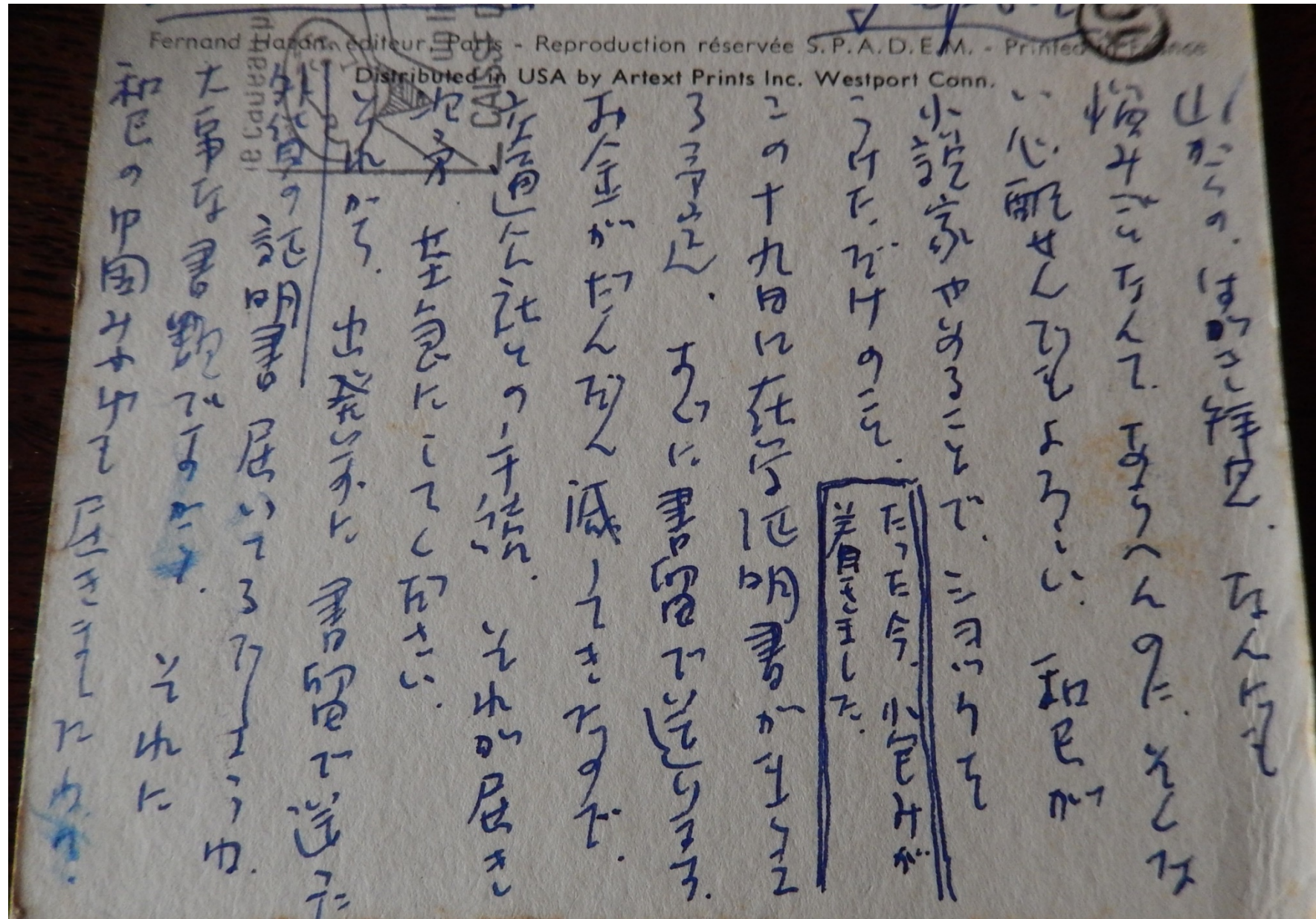


4月12日パスポート取得
4月19日ビザ取得
4月29日羽田から出国

たか子は、
和巳を単身
赴任させ、
和巳の京大
着任を支援
しませぬ
理由は？

「和巳が小説家やめる
ことで、ショックをう
けただけのこと。」

たか子がフランスから母親に
送った葉書に、和巳が小説家
から研究者になるということ
にショックを受け、和巳をお
いて渡仏したことが記されて
います。



1969年秋～

和巳が体調を崩し、京都大学を退職、自宅で療養、東京女子医大病院への入退院を繰り返す



たか子は、およそ2年間、鎌倉と東京の往復、病院に寝泊まりするなど献身的に支えました。

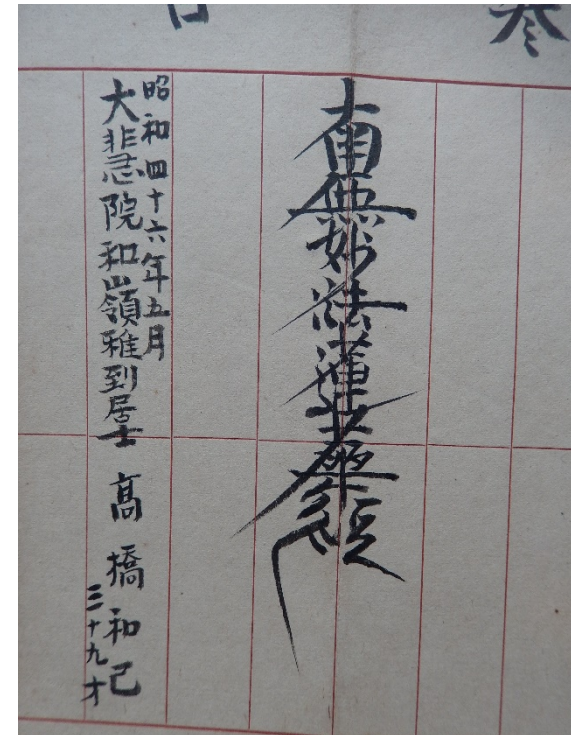
小松左京を含め、多くの友人が見舞いに来る



1971年5月3日
和巳逝去

富士霊園

和巳の位牌は、埴谷雄高の書いたものです。
岡本家の過去帳には「大慧院和嶺雅到居士」
の戒名が記されています。



1975年8月5日

受 洗:遠藤周作在席、遠藤夫人代母

洗礼名:マリア・マグダレナ

1976年11月

新居を建てる



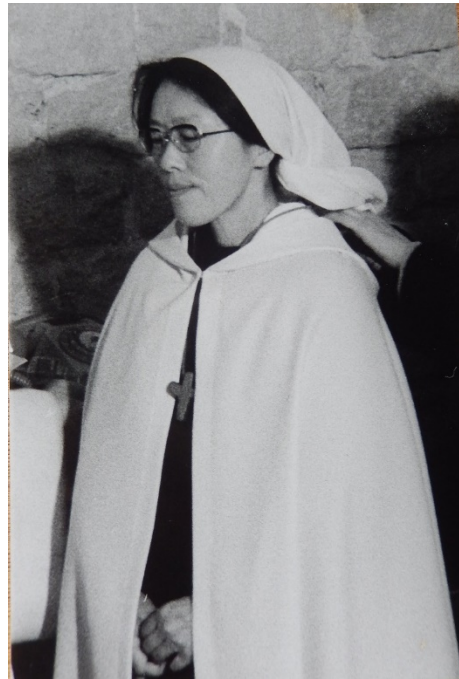
友人の黒川紀章
の設計により新
しい家を建てま
した。煉瓦の色
にもこだわりの
いたフランス風
の家です。しか
し、この家に住
んだのは四年足
らずでした。

母達子訪
問



1980年9月～88年6月
たか子：フランス

1985年 修道会志願者
1986年3月 修練者
1987年4月 修道者

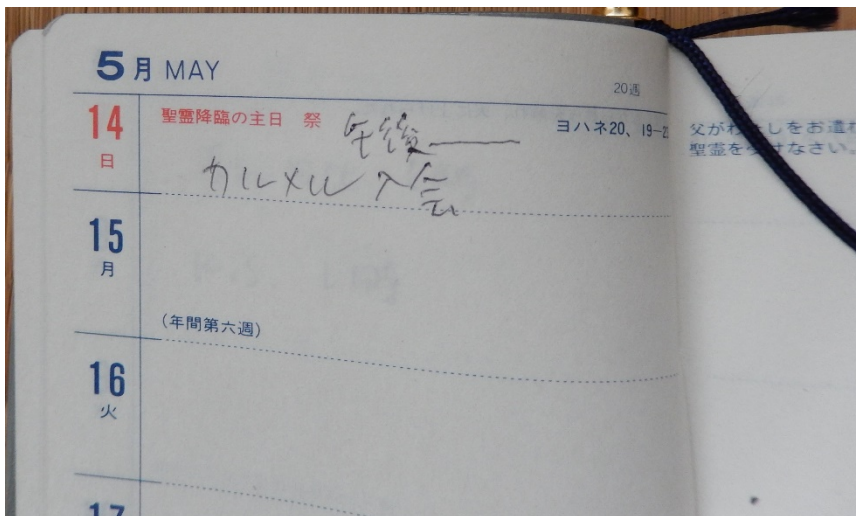


ぎりぎりの質素な生活で
人生を全うする修道者の
生活をしつつ、感銘を受
けたある宗派の活動を日
本に広めるべく、動きま
したが様々な事情で上手
くいかず、日本に帰国す
ることになりました。



1989年5月～90年5月 京都女子カルメル会入会

たか子メモ帳1989年



カトリック女子跣足カルメル修道会
お告げの聖母修道院



“「亡命者」によれば”

プスチニアにおける観想生活を
考えていたようだが、、

1990年5月15日退会

フランスで行っていたよう
な生活に戻るべく、カルメ
ル会に入会しましたが、理
想とする観想生活はできず
一年で退会しました。
入会したとき、母親は大変
悲しんでいました。

1990年5月～2003年5月 母親の介護をしつつ、 実家で著作を続ける



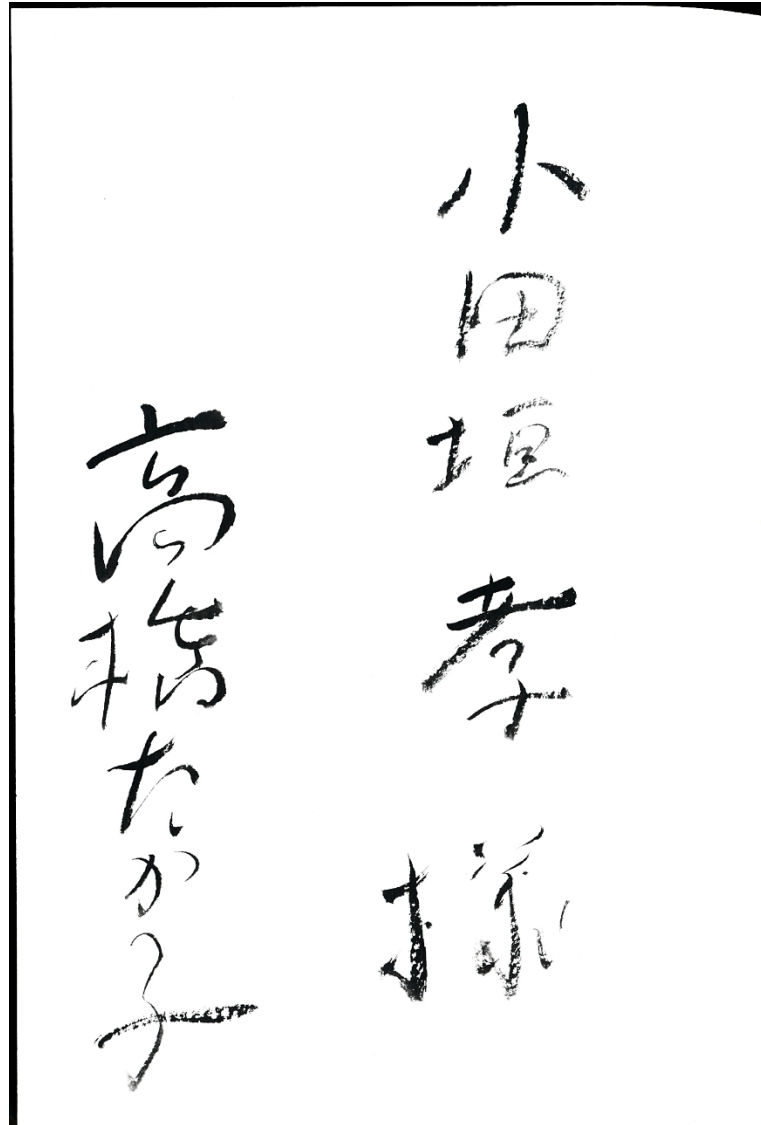
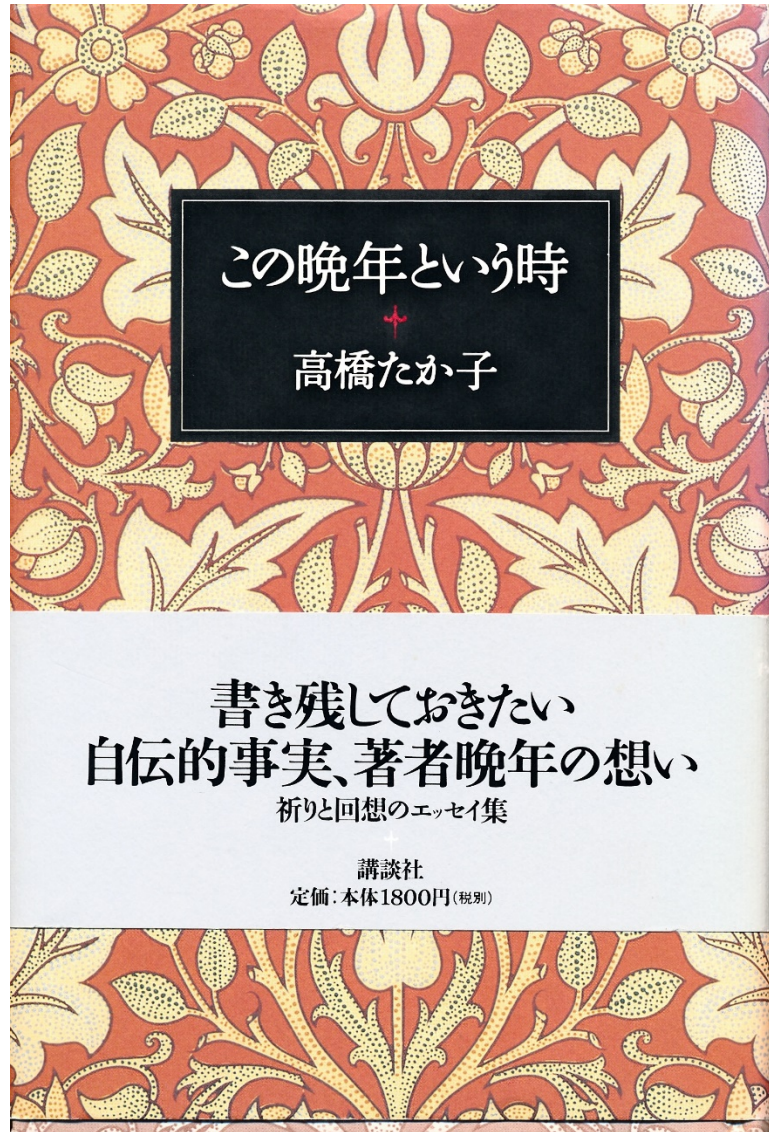
たか子の部屋の祈りのためのイコン

「私の通った路」より
栄光のキリストと聖マリ
と洗礼者・聖ヨハネとを描
いた三つ折りのイコンを置
き、前に赤いコップ・ロー
ソクを灯した。(・・・
或スールがイコンを作って
くれたものを壇の上に置く
ようになった。))



この頃、たか子とは叔母を見舞いがてら京都でよく会い
ました。たか子は、
・小説の書き方
・洗礼をなぜ受けたか
など色々と話してくれました。
「衣笠山が綺麗に見えるのよ」とか「庭に次々と花が咲
くのよ」というとき、たか子の目が輝いていました。
「母が黒川紀章と会い、引き続き和巳と会った四条大
宮の喫茶店」、近くの「一度行ってみたいと思っ
ているレストラン」にもつれて行って
くれました。思えば、母
親や和巳の思い出の追体験をしているようでした。

取材協力



叔母の実家（私の父の実家）や、互いの祖母の実家に一緒に取材にも行きました。その内容がこの本に書かれています。

「天の湖」に出てくる伝書鳩の描写は、私の兄が飼っていた伝書鳩を見て書かれています。

「君の中の見知らぬ女」創作ノート（たか子の小説論）

たか子によると
何かを書こうと思うとき、一つの事柄から次々と様々なことがわき出してきて、それからさらに様々なことが出てくる。この創作ノートはそれらを全て書きとめたもので、その事柄をつないでストーリーを作り、文章にしていく。
私小説は小説ではない。



「君の中の見知らぬ女」最終原稿

一九九九年六月下旬、私（読者）は何年ぶりか
でシヤルル・ド・ゴール空港に降り立った。
どこまでも均一に広がりわたっているような
しらしらと稀薄な、いわば無機物でもい
た空気を、水中游泳でもするふうに通って
ると感じたのは、もう、以前の度重なる旅行
の際とは違って、パスポートに検印を捺された
か、たせいだろう。そうとは知らず、検印所
で、国境通過の許可を受けるべくパスポート
をさし出す毎年の習性となつた、つうんと全
身をつつぱしる痛みのうち、身分証明写真
のペーじをひらいて見せ、さら、まちがいな
く本人です、と制服姿の係官に告げれば、かり
の気分である、と、意外にも相手は、右手を大
さく振って、どうぞ、どうぞと通過をノンシヤ
ランにすすめたのであつた。之？、り思いつ
つ知は通りぬけた。これが、広い空間か、とわ
か、たか、私たちが、広いに属さぬ国々の人々
までが、こんなな、駆け足のような速さで入って
い、つても、いい、は、ちよ、つ、わか、らぬ、こと、に

君の中の見知らぬ女

高橋たか子

2003年

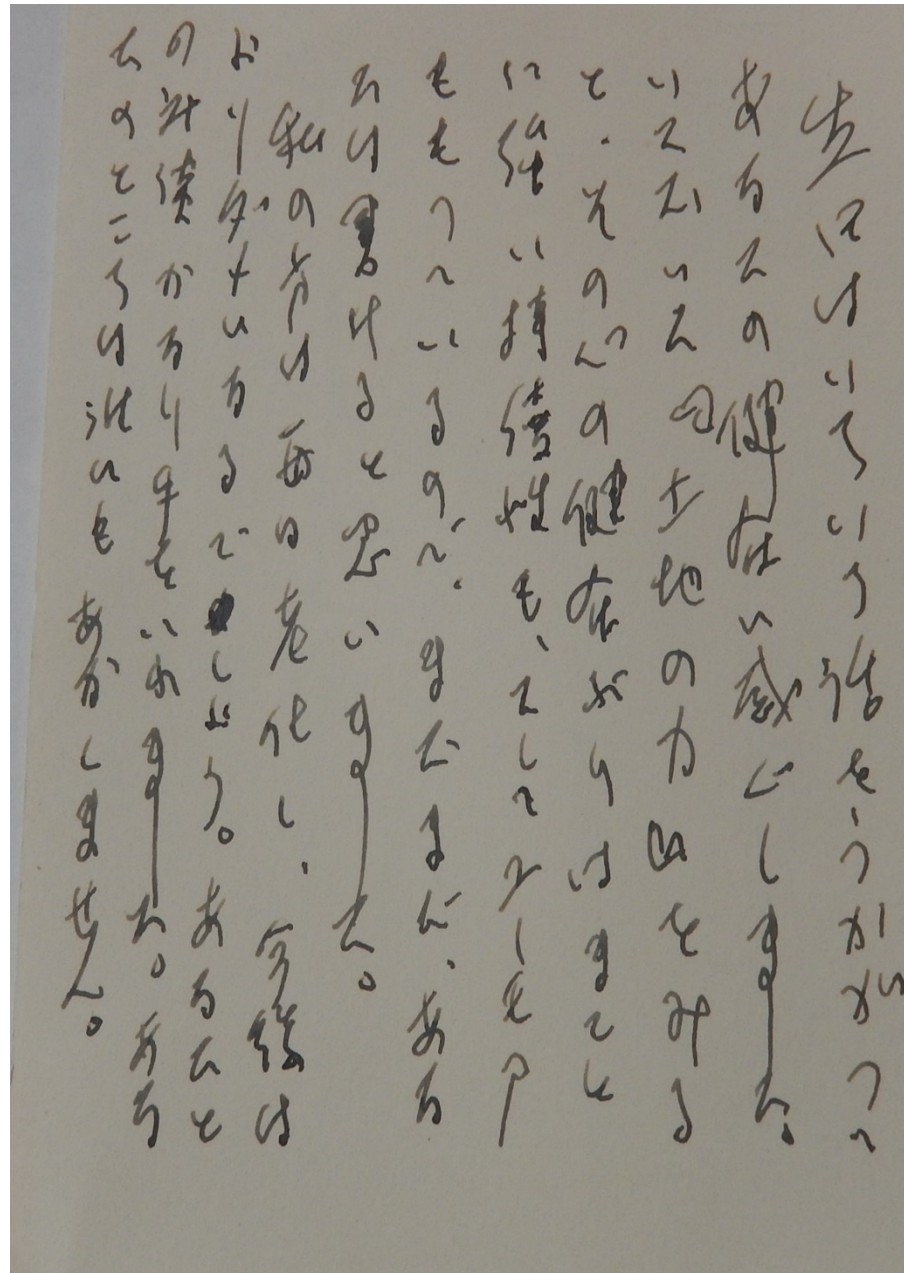
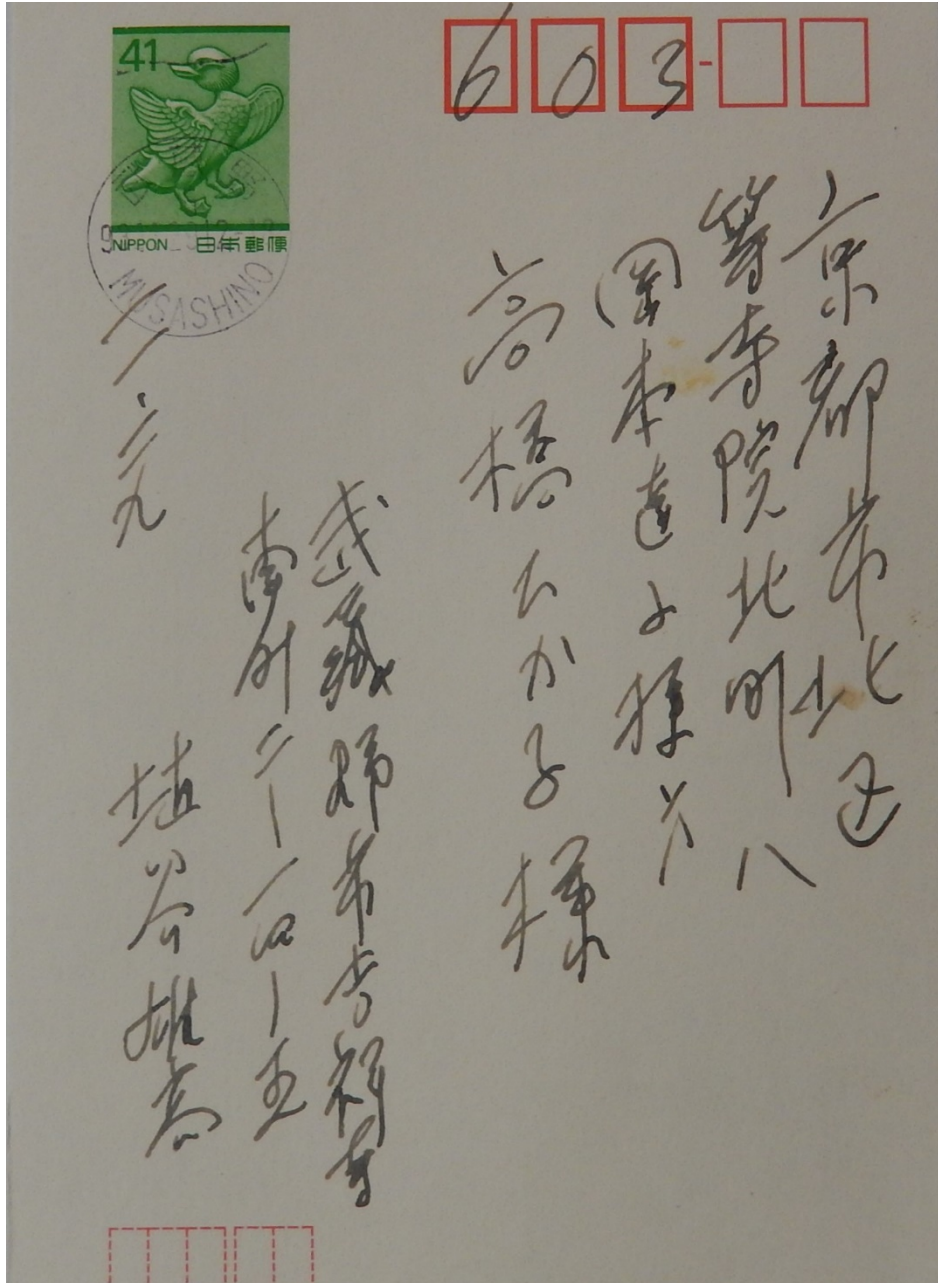
茅ヶ崎市の老人ホーム太陽の郷入居



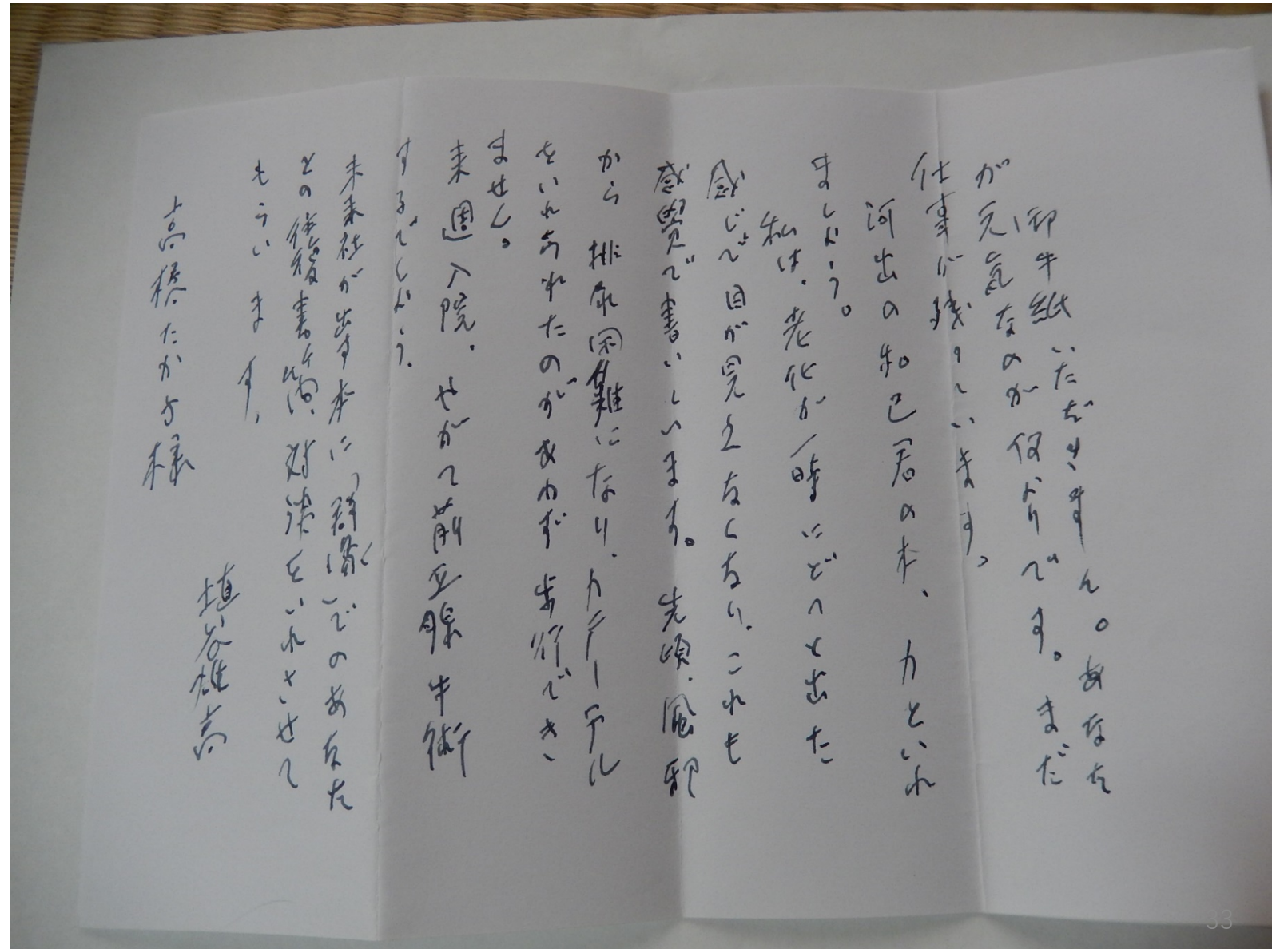
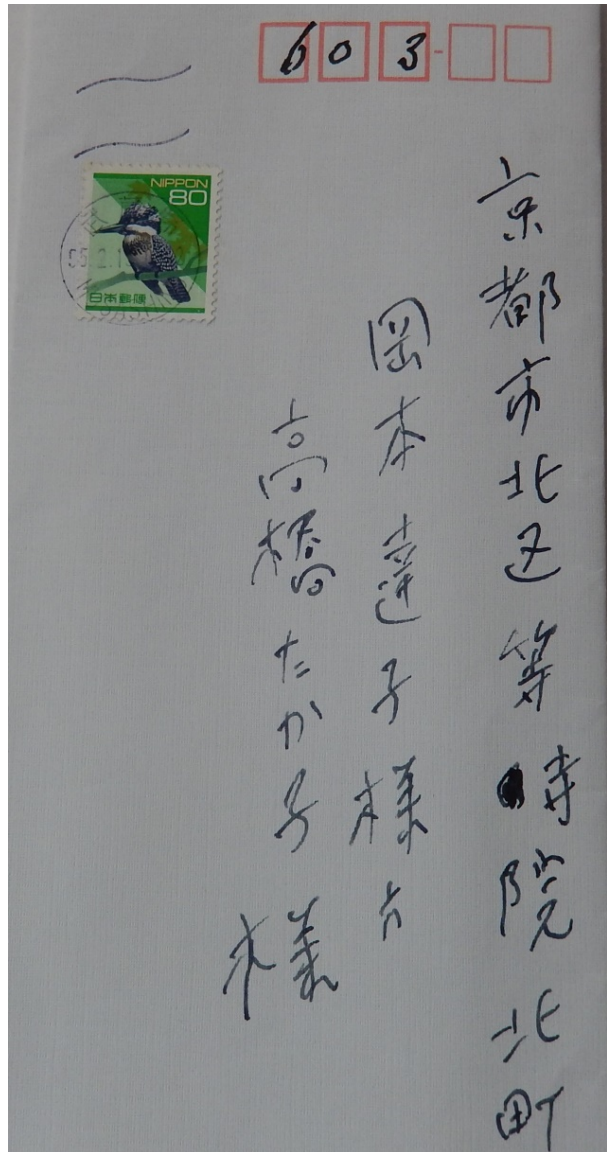
たか子は、二〇〇〇年に母親を看取りました。自分の余生のことを考え、茅ヶ崎市の老人ホームに入りたいということでした。法務局に出かけて老人ホームの財務状況を調査し、保証人を引き受けました。

たか子が交流した人々：埴谷雄高

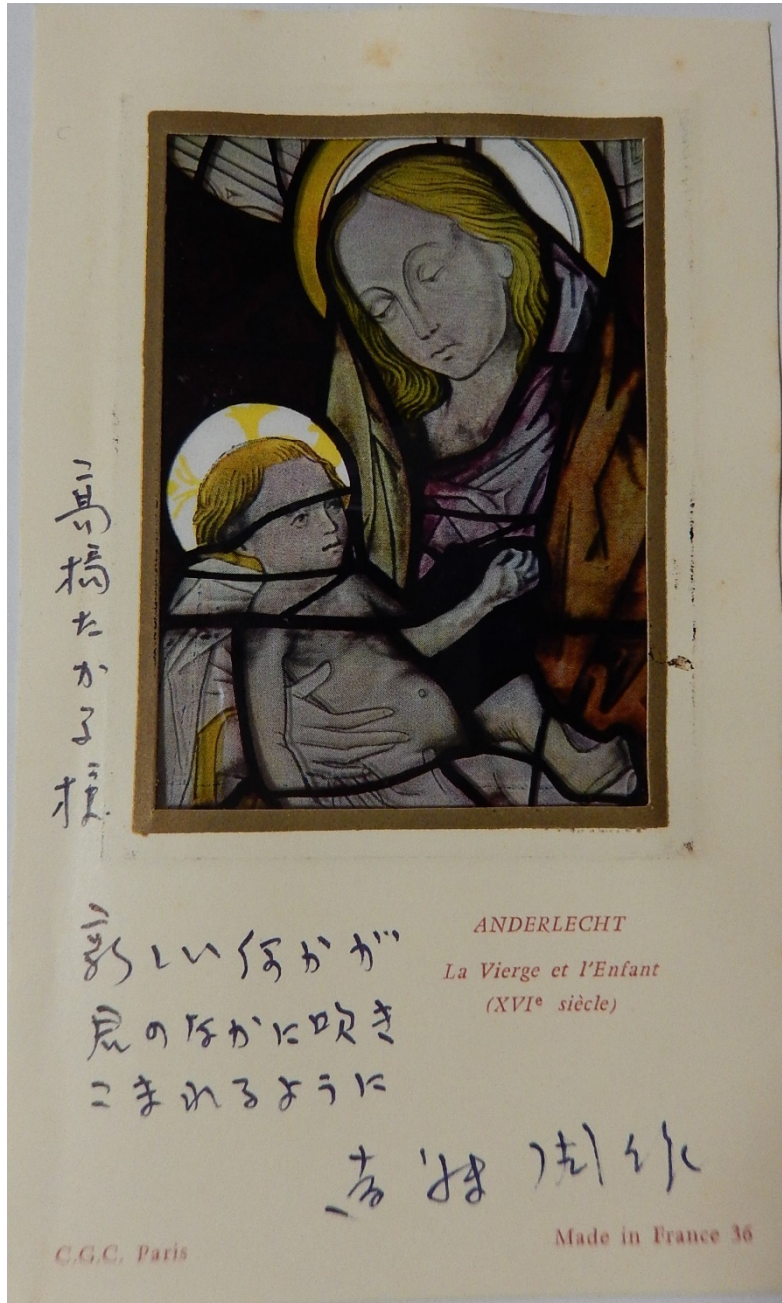
たか子は。文人他多くの方々と交流がありました。



たか子が交流した人々：埴谷雄高



たか子が交流した人々：遠藤周作



その他多くの方々

- 朝吹登水子
- 田中阿里子
- 大庭みな子
- 折目博子
- 中村真一郎
- 横尾忠則
- 麻田浩

-
-
-
-



黒川紀章は友人

2013年7月12日
たか子逝去



太陽の郷の食堂



食堂で朝食を済ませた後、2階の部屋に戻る階段の途中で倒れて亡くなりました。

通夜は、目黒区の葬儀社で私一人で行い「神共にいまして」を静かに歌って冥福を祈りました。額に手を当てて知恵を頂きました。

葬儀は、麴町の聖イグナチオ教会で喪主を務めた鈴木さん夫妻、私、キリスト教の関係者数人とで行われました。

富士霊園



分骨が実家で和巳の位牌と対面

たか子は和巳と一緒に富士霊園の高橋家墓地に葬られています。たか子の希望により、分骨を岡本家の墓地に埋葬しています。

本妙院 岡本家墓地



旧宅の庭



著者について

著者は高橋たか子の従弟
ブランダイス大学助教授,
京都工芸繊維大学, 九州大学,
東京電機大学教授を歴任
九州大学名誉教授

2025年6月1日公開

著者・発行者 小田垣 孝
発行所 科学教育総合研究所
〒603-8346
京都市北区等持院北町8-6
電話番号 075-366-8950